



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済：石油・ガス関連（1月30日～2月6日）

1. ガソリンの輸送・サービス代金と補助金合理化（1月30日付シャルグ紙）

政府が補助金合理化第二弾にて、ガソリン価格の引き上げを検討している中、ガソリンに付随する輸送・サービス代金にかかる補助金を廃止することで、NIORDC（National Iranian Oil Refining & Distribution Company, 国営石油精製販売会社）、政府、補助金合理化本部、消費者・生産者支援機構が合意した。輸送・サービス代金として年間3～5兆リヤール捻出されており、これが廃止されると、ガソリン購入1回当たり1,200～5,000リヤールの値上げとなる見込みである。

2. Euro4基準のガソリンを製造・供給（1月31日シャルグ紙）

自動車産業の情報筋は、Euro4基準のガソリンを製造・供給しているという石油省の高官らの主張を否定した。同情報筋によると、国内外の研究所にEuro4と呼称されるガソリンを持ち込み、検査を行った結果であるとしている。情報筋は、唯一「クリーン・エア・デー」の期間中の1日のみ、Euro4基準のガソリン供給が確認されたとしている。

3. ガス関連プロジェクト（2月2日付イーラーン紙）

NIGC（National Iranian Gas Company, イラン国営ガス会社）のオウジー総裁は、34回目を迎える革命記念日を記念し、34の都市、1,147の村、305の工業団地へのガス供給や、10のガス輸送パイプライン・プロジェクト、21のCNG（圧縮天然ガス）ステーションの立ち上げ計画を含む2,000以上のガス関連プロジェクトを進行させると述べた。これとは別に、14万1,221戸のメフル住宅へのガス供給を、最初の10日間（2月1日～10日）で実施するとしている。イランのガス普及率は、都市部が95%、農村部が65%となっている。

4. 航空燃料料金と航空券料金の値下げ（2月3日付ケイハーン紙）

航空協会のムーサヴィー会長は、政府が航空燃料料金を値上げ前の基準まで低下させるのであれば、我々は航空券料金を10～15%程度値下げする準備があると述べた。また同会長は、政府は航空会社に対して外貨を十分に割り当てておらず、また我々には外為市場（オープン・マーケット）にて1米ドル=3万8,000リヤールのレートを手に入る能力はないと述べている。